

# アイアンマン西オーストラリア 2009 (バスセルトン)

ほろ苦かったアイアンマンデビュー

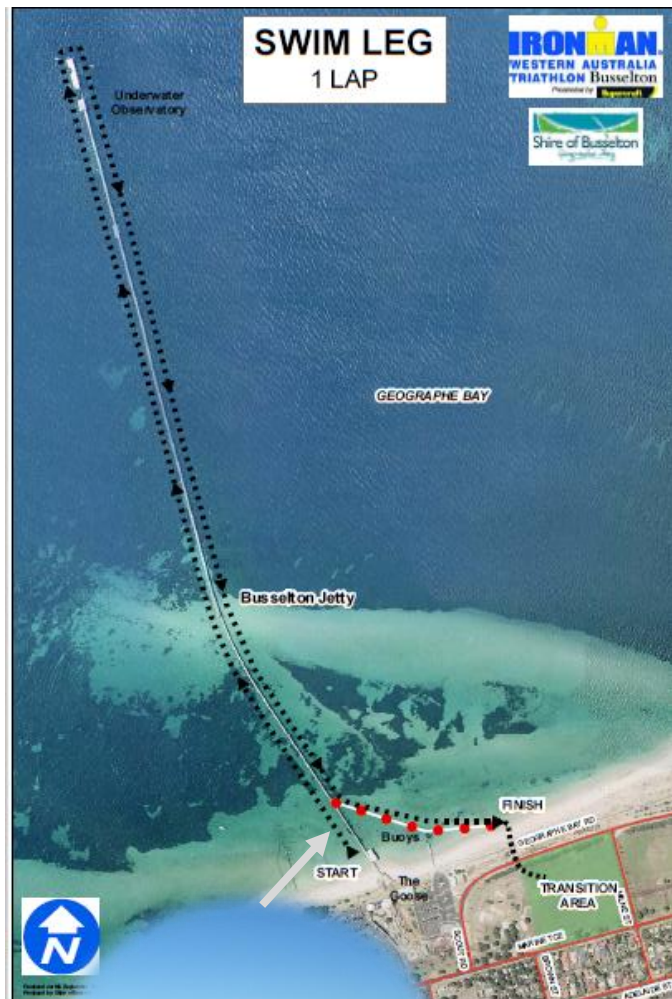
N. SUGIMOTO

2009/9 宮古島の大会要項が発表になり、なんと 65 才の年齢制限により出場不可となってしまった。この事は同時に自分にとって、ロングの世界から足を洗うか否かの選択を迫られた出来事であった。結局、燃え尽きるまでやらないと後悔するかもしれないとの結論に達し、熟慮の末？WA アイアンマンに申し込んだのだ。とは言え自分にとって初めてのアイアンマンで何といてもスイムが不得意の自分にとって 3.8 km は初めてで、わくわくと同時に恐怖でもあり新たな挑戦であった。

西オーストラリア州の中心都市パースから南におよそ 250 km、バスでサバンナを南に延々と 3 時間半、着いたところが木造の棧橋で知られるバスセルトンであった。高層ビルがない小さな清潔感のある田舎町である。以前は木材の輸出港であったとの事であるが今は観光地との事、空はカラッと晴れ渡り日差しが強いが暑さを感じない。そしてハエの多さがやけに気になった（放牧の国である事で納得しよう）。

(スイム)

スイムは観光の名所ともなっている木製の棧橋 (1841m) を一周するコース。朝、快晴ではあるが肌寒い、水温は 21°C 程度であろうか (宮古より冷たいと思った) 手足が冷たくなる。6:00 プロがスタートした後の 15 分後に約 1200 人が一斉にスイム開始。スタートラインの幅は広く宮古の様な激しいバトルも無い。とにかく気持ちよく泳ぎきる事が今回の課題だった自分にとってまずは上々の滑り出しであった。過去のパターンではどうしてもスタート直後は知らず知らずにピッチが上がリバトルも加わり 500m 程度で息が上がり今ここにいる事を後悔したりする。未知の距離に備え最初から全くピッチを上げることなく淡々と出だしたのが良かったのだろうか。右オープン自分にとってこのコースは常に棧橋が見え目標を見失う事が無く安心出来る。殆んどヘッドアップする事もない。水深はどこまで行っても 2~4 m 程度と変わらない、そして水質、透明度は良くくっきりと海藻や岩が見えいたってきれい。身体が前に進むのがわかる、海流も少し味方してるみたいで気持ちよく進む。腕を伸ばし水を壊さないようにゆっくり引きよせる。海面を遊泳している気分さえなれ、今試合中である事を意識してなかったかもしれない。



栈橋が途切れ折り返し点に着いた。後は陸地を目指すだけだ。気になっていた折り返し後の海流も（逆流）もさほどでない。あと何キロ、と残りを数え耐える思いも無くたってマイペースだ。やがて陸地が見えて左旋回の地点に達した頃、潮が逆流に変わった。進まないのは直ぐわかる。同じ海藻が何時までもそこにいるからだ。ピッチを上げ海流に勝つしかないのだ。まだがんばる力は残っていたし陸が見えるので励みになった。陸地に到着していつものように今来た後ろを見渡した。まだ後ろに泳いでいる人がいる事を確認して安堵し上陸したのだった。

（バイク）

気がかりだったスイムが予想以上に快適に終わり、もう殆んど完走を疑う気持は全くなかった。したがって今からのバイクはガシガシがんばってみたいと思った（全くフラットなコースと聞いてたし）。バイクコースは全くのフラットな 60 km の 3 周回である。朝の気温が低くバイク立ち上がり時の冷えを考えレーシングウェアは濡らさず全てスイム後に着替えた。やがて朝の涼しさから次第に本来の強い日差しが照り注ぐ。アスファルトの路面は結構荒れていて路面抵抗が大きく頑張っているほどにスピードが出ない。遮るものが無い平原では常に風はあり、疲れてくると何時も向かい風に感じる。快適に飛ばした（頑張った）のは 100 km までだった。どうした事だろう。予想もしてなかった 100 km での異変！！。突然右脚の 4 頭筋、そして間もなく左も痙攣したのだ。走りを変え様子を見るも一向に改善の兆しはなくバラ色が一瞬に苦しい戦いと変わってしまった。その後の残り 80 km はこれまでにないつらい走りとなってしまった。バイクのゴール地点では脚が攣りまくり、歩けるようになるまで 10 分は掛ったであろうか。



（ラン）

制限タイムまではまだ 8 時間半以上ある。そのうち走れるようになるだろう、と落ち着き払っていたが全く走る動作もできない。3 時間も歩いたのだろうか、次第に歩いている自分に嫌気がさし、12 km 地点でリタイヤする事としたのだった。なんとも微妙な気持で終わる結果となった。この全く想定外の結末は、暑さを感じない乾いた暑さの渴きに気が付かず水分補給を怠った為、だけだったのだろうか。